

1 学校経営の基調

公教育機関として「第3期埼玉県教育振興基本計画」「埼玉県教育委員会指導の重点・努力点」及び「埼玉県教育局東部教育事務所の指導の重点・努力点」並びに「第2次幸手市教育大綱」及び「幸手市教育重点施策」に基づき、人権尊重と男女共同参画の基本理念の下、主として次の5つを基調として令和2年度の学校経営方針を策定する。

- (1) 幸手の「ふるさと創生」に資するために、ふるさと幸手を誇りに感じ、「知・徳・体」のバランスのとれた生きる力を育む教育活動を実践する。
- (2) 「何ができるようになるか」を具現化するため、育成を目指す3つの資質能力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を身に付けることを、全ての教育活動の基軸とする。
- (3) いじめなどの問題行動の未然防止と早期発見・早期対応に努めるため、存在感・充実感が味わえる「仲間づくり」「絆づくり」を推進する。
- (4) 学校や学年等の取り組みに関する理解促進を図るため、日常的に情報発信する「学校の見える化」に努めるとともに、学校・家庭・地域が協働で目標達成をめざす「さくら小コミュニティー・スクール(さくら小学校運営協議会)」を更に推進させる。
- (5) 問題解決にスピード感と情に沿った丁寧な対応に資するため、教職員が組織人としての自覚の下、「報告・連絡・相談」を徹底した「風通しのよい職場づくり」を推進する。

2 さくら小の伝統・文化の継承【校訓(合言葉) 全力】

統合後、歴史の浅い本校に文化の風を吹かせた言葉が「全力」である。校訓(合言葉)「全力」は、第4代 中山善廣校長が提唱し、第5代 落合由紀夫校長が継承したさくら小が誇るべき文化であり、伝統である。

校訓(合言葉)「全力」には、以下の3つの意味が込められている。

- (1) 詩人「まど・みちお」さんの『小学生は うまれてはじめての がっこうで、たった 一かいきりの すばらしい「とき」です。 ずっといい「とき」です。 ぜんりょく あげて がんばって ぜんりょく あげて たのしんでください。』というエールをさくら小の子ども達に伝えたいという中山校長の思い。
- (2) さくら小の卒業生の多くは、幸手中学校に進学する。幸手中学校の校是が「全力は美なり」であるのだから、多くの卒業生が進学するさくら小で「全力」の意味を子ども達に浸透させることは必然であるという落合校長の思い。
- (3) 国語教師の多くが尊敬している「大村はま」先生の『持っている限りの力、出せる限りの力、ありったけの力を出すことは、自分を成長させることだ。(大村はまの言葉より)』という言葉から「全力で取り組むことは自分を成長させることである」と捉えた私の思い。

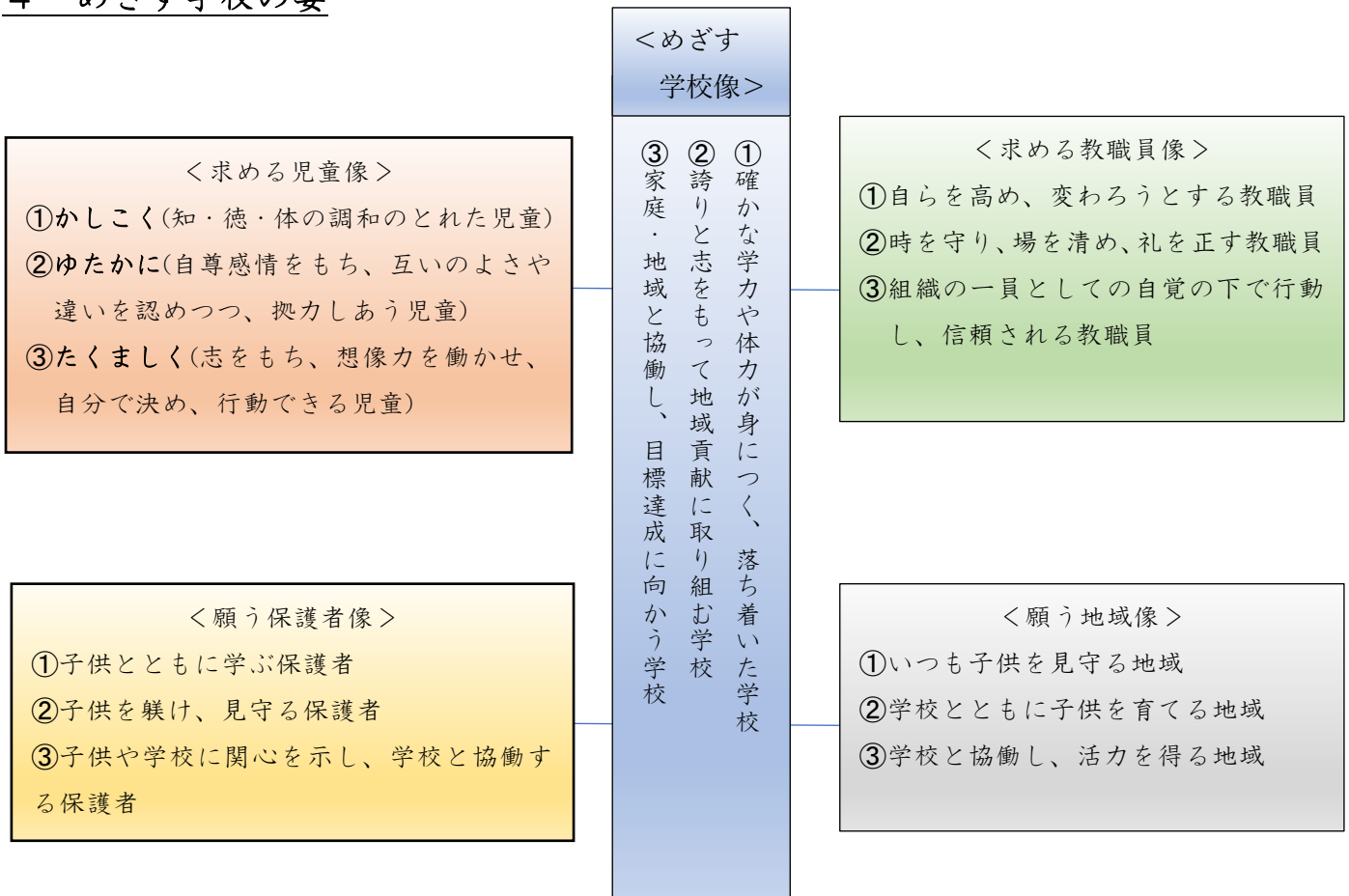
3 学校の教育目標

ふるさと幸手を愛し、志に生きる(児童の育成)

★ふるさと→地域のひと・もの・こと(歴史・文化)

★志→これまでぼんやりと眠っていた一人の人間が、急に眼を見開いて起き上がり、自己の道を歩き出すこと(森信三の言葉より)

4 めざす学校の姿



5 今年度の重点目標

- <重点1> 基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、学び合う子
- <重点2> 習得した知識を活用して、主体的に考え、表現する子【年度の重点】
- <重点3> 地域とともに学びに向かう力や志をもって生活できる子

重点	重点的取り組み	取り組み指標	達成指標
重点目標 1	学校 ①学習規律・学習習慣及び読書習慣の確立	①「幸手スタンダード授業5」を徹底し、月1回程度、効果を検証する。	①単元確認テスト等平均正答率 80 点以上 80%以上、60 点未満が 5%未満
		②「授業」→「家庭学習」→「授業」学習サイクルを確立する。	①家庭学習「さくらっ子ノート」の提出率 90%以上
		③国語の教科書に紹介されている本を読む活動を通じて読書習慣を身に付けさせる。	①生活習慣アンケートにおける「1日30分の読書習慣」実施率 85%以上

		②健康・体カづくりの推進	①体カ課題解決校としての研究成果を広く情報発信する。 ②運動やスポーツ好きの児童の割合85%以上にする。	①食育・健康教育を含めた体カ課題解決研究の認知度70%以上 ①体カテスト総合評価(A+B+C)合計88%以上 (D+E)の合計12%以下
	家庭・地域	①我が子の学習意欲の喚起(CS・保護者)	①宿題・家庭学習を点検し、我が子の取り組み状況を把握するとともに「ほめること・やる気にさせること」のコメント記入を促す。	①学校評価関連項目肯定的評価80%以上
		②我が子の学習習慣・読書習慣の定着(CS・保護者)	①学習を阻害する要因(スマホ・ゲーム等)の制限ルールを決め、月1回程度(11日)に点検を行う。	①各種調査等関連項目肯定的評価80%以上
		③望ましい生活習慣と運動習慣の啓発(CS・保護者)	①課題研究に「体カアップ100日作戦」を実施したり「体カアップ運動」を紹介したりする。	①運動習慣(1週間の総運動時間60分未満)の児童8%未満
重点目標 2	学校	①知識・技能が身につく教科等学習の充実	①指導において「主体的・対話的で深い学び」の視点を位置付け、「本時のめあて」と「まとめ・振り返り」が一致する完結型授業を実現する。	①国及び県・市の学力調査等における平均正答率を前学年比3P以上上昇
		②思考力・判断力・表現力の育成	①総合的な学習の時間や特別な教科道徳において思考力・判断力・表現力を育成する。	①総合的な学習の時間の資質能力表に沿った定着度70%以上
	家庭・地域	③体験活動の充実及び地域貢献の実施	①学習活動に地域と連携した体験活動を意図的・計画的に実施する。(年間指導)	①学校評価における地域との連携認知度80%以上
重点目標 3	学校・家庭・地域	①学校・家庭・地域が協働で目標達成をめざすCSの構築	①年間4回の学校運営協議会を開催し、目標達成のための取り組みについて熟議する。	①学校評価におけるCSの理解度70%以上
		②積極的な情報発信による「学校の見える化」を推進	①各種たより、ホームページ等により学校の教育活動を広く周知し、意見をいただく。	①学校評価における「学校の見える化」に関する肯定的評価80%以上